

咬合平面ガイド・スパチュラ



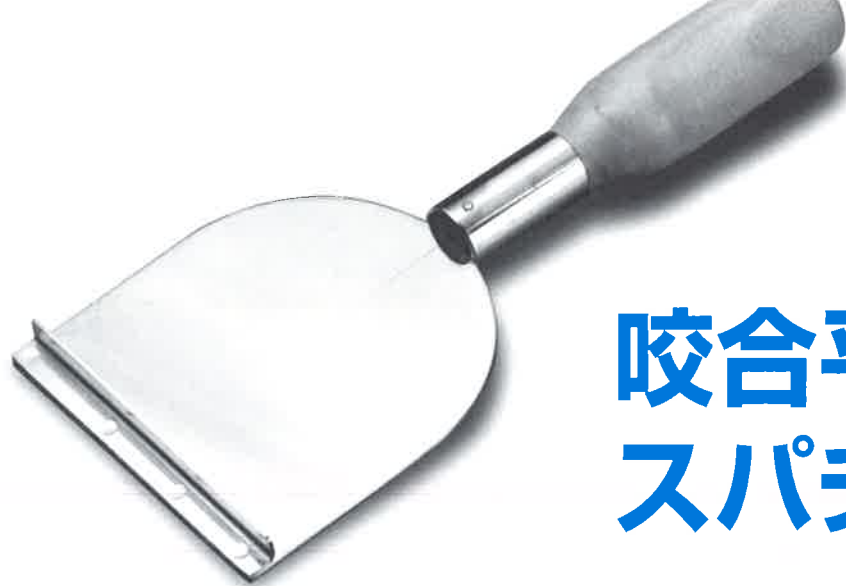
→このガイド・プレートにより
調和のとれた咬合平面を
スピーディに設定できます。

咬合平面ガイド・スパチュラは、咬合平面設定の際の試行錯誤的方法を無くすために考案されたもので、臼歯部の咬合平面がハムラー・ノッチから7mm下方に設定できるようになっています。後方に於けるこの位置関係は、既に多数の症例で、良好な結果が得られることが確認されています。極めて簡単な操作で半自動的に平均的な咬合平面が得られるこの器具は総義歯にはもちろん、局部床義歯、有歯顎咬合再構築症例、スタディモデルでの診断など幅広くご利用いただけます。

ハムラー・ノッチ・ロケーター



総義歯をはじめとし、多数歯欠損例における有床義歯、特に遊離端義歯の製作上、上顎義歯後縁の決定に極めて重要なポイントとなるハムラー・ノッチ部を探診し、同時に印記するインストルメントです。



咬合平面ガイド スパチュラ

総義歯ケースの使用例

- ①最終印象に先立ち、ハムラー・ノッチ・ロケーターを用い、口腔内でハムラー・ノッチを確認し、記録します。(写真①②)
- ②印象採得された印象面にはハムラー・ノッチが印記され、得られる石膏模型にはハムラー・ノッチが転記されます。(写真③)
- ③咬合床を口腔内に装着し、リップ・サポートを調整後、安静位における上唇下縁の位置関係から、前歯部における咬合平面の高さを判定し、蠟提唇面上にマークします。(写真④)
- ④石膏模型を咬合平面ガイド・スパチュラに適合してみます。(写真⑤)
- ⑤咬合平面ガイド・スパチュラを、ガスバーナーで蠟提のワックスが溶けるぐらいの温度に熱します。
- ⑥石膏模型上に咬合床をしっかりと戻し、石膏模型上に記録されているハムラー・ノッチ部分を咬合平面ガイド・スパチュラのガイド・プレート上に適合させ、蠟提咬合面のワックスを溶かしてゆきます。(写真⑥⑦)
- ⑦以上のようにして咬合平面が調整された咬合床(写真⑧)を口腔内に装着、試適を行い、咬合平面盤などを用い、カンペル氏平面をも参考に、調和した咬合平面であるかを観察、調整を行います。(写真⑨)

